

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0173600479		
法人名	社会福祉法人 厚真町社会福祉協議会		
事業所名	厚真町高齢者グループホーム やわらぎ		
所在地	勇払郡厚真町字本郷236番地の6		
自己評価作成日	平成23年3月19日	評価結果市町村受理日	平成23年5月12日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>“ゆっくり、のんびり、楽しく”を理念に、いつでも、どんなときでも、温もりと安らぎのある生活を目指して取り組んでいます。</p> <p>敷地内に畑や温室を設けており、農作物や草花の栽培を楽しんでいます。</p>
---

事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="http://system.kaigojoho-hokkaido.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0173600479&amp;SCD=320">http://system.kaigojoho-hokkaido.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0173600479&amp;SCD=320</a>
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	平成23年3月31日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>ともいきの里として、高齢者生活福祉センター生活支援ハウスともいき荘、デイサービスセンターほんごう、高齢者グループホームやわらぎがある。利用者はゆったり、楽しく、個々人の希望に合わせた生活をしている。デイサービスへの訪問による地域住民との交流、気分を変えての入浴支援、厚真町SOSネットワーク参加、防災無線を使った広報を行っており、昼夜対応避難訓練には運営推進会議メンバーや社協理事の参加があり、スピーカーによる地域住民の参加も得ている。緊急連絡網が整備されており、利用者の安全安心に繋がっている。</p>
---

サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します				
項目	取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当するものに印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)			

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>理念に基づく運営</b>					
1	1	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員間で理念を共有し、これを意識して業務にあたっている。 しかし、地域との付き合いを意識した理念ではない。	「ゆっくり、のんびり、楽しく」の理念の下、管理者、職員はネームプレート入りに携帯し、意識して取り組んでいる。地域密着型理念の再検討を意識している。	事業所独自の地域密着型理念の再構築を期待したい。
2	2	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の保育園と概ね月2回程度の交流を実施している。	田舎祭り、小学校の学芸会、保育園の運動会、厚真町の運動会、福祉会のお祭り見物、また、中学校の職場体験、高校の家庭介護、実習体験、ボランティアの訪問受け入れなどの相互交流ができています。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	事業所自らの取り組みとしては実施していない。		
4	3	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進委員からの意見を、年間行事計画や防災訓練計画に反映している。	運営推進会議委員の構成は、家族会代表、自治会代表、ボランティア、包括支援センター、民生委員、施設長、管理者となっており、今年度は5回開催し、現状報告や活動報告、意見交換を行っている。	
5	4	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	事業所の運営については、自治体と相談する事は多い。	厚真町の委託を受けた事業所でもあるので、運営、財務などでの相談をしている。	
6	5	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	どのような事が虐待にあたるのか、について正しい見識を持ち、ケアに取り組んでいる。	会議の際、身体拘束排除の理念や防止マニュアルを読み研修をしている。夜間6時から午前8時30分まで施錠している。	身体拘束の内容と弊害を認識して、身体拘束をしないケアのための、研修、実践を期待したい。夜間の施錠についても一考を期待したい。
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束排除の理念や防止マニュアルを作成し、職員間で理解を深めている。		

厚真町高齢者グループホーム やわらぎ

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修機会が少ないのが現状。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	丁寧に説明することを心がけている。		
10	6	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	定期的に利用者家族会を開催していただき、個々での意見を集約したうえで事業運営に反映させている。	利用者にはいつも声かけして、要望を汲み取る気配りをしている。玄関にはご意見箱、用紙が用意しており、事業所行事(敬老会、新年会など)に合わせて家族会を開催して意見、要望を取り入れている。	
11	7	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的に職員会議を開催しており、事業運営の関する意見を求めている。	月2回、定期的に職員会議を行い、職員の意見を求め運営に反映している。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	現状でできる限りの労働環境整備に努めているが、十分とはいえない。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修には積極的に参加するよう指示している。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	事業所同士で連携して研修会の企画を行なうなど、協力関係を築いている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>本人の率直な気持ちや要望について、聞き取りを実施している。</p>		
16		<p>初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている</p>	<p>入居申請をいただいた場合は、家庭訪問したうえで現況の把握に努めている。</p>		
17		<p>初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>必要に応じて他のサービス利用も含めた選択しがある事を伝えている。</p>		
18		<p>本人と共に過ごし支え合う関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている</p>	<p>人生の先輩として尊敬し、生活を共にしている。</p>		
19		<p>本人と共に支え合う家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている</p>	<p>家族会との相互協力により、利用者本位のサービスに努めている。</p>		
20	8	<p>馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>	<p>これまで所属していた町内会の敬老会など、参加希望があれば送迎支援等を実施している。</p>	<p>馴染みの理美容院へ通ったり、お盆にはお墓参り、病院への面会、元住んでいた自治会の敬老会の招待を受けるなど、馴染みの人と場所への支援ができています。</p>	
21		<p>利用者同士の関係の支援</p> <p>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている</p>	<p>1人ひとりの個性の把握に努め、円滑な人間関係が保たれるよう、常に目配りしている。</p>		

厚真町高齢者グループホーム やわらぎ

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	家族から相談があれば支援に応じている。		
<b>・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	適切なニーズ把握に努めている。	アセスメントシートを使いながら、個々人の思いや希望を把握して支援している。	
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	サービス開始段階において、本人・家族にはこれまでのライフヒストリーについて聞き取りを実施している。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個別の心身状況に配慮した日課支援に努めている。		
26	10	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的にケア会議を実施しており、介護計画実施のモニタリングと介護計画の作成・修正を実施している。	月1回のケア会議、利用者、家族の意向を取り入れた計画を3ヶ月毎にモニタリングを行い、変化時は随時見直しを行っている。	計画、実践、評価、日々のケアサービスの取り組みが連動する記録の工夫を期待したい。
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別に毎日の生活記録を作成しており、介護計画の見直しに役立てている。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	同一敷地内にある、認知症対応のデイサービスとの交流支援や、自治体の実施する機能訓練・体操に参加することがある。		
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	定期的に町内のボランティア団体と交流し、談話やレクを楽しんでいる(アレンジフラワーなど)。		
30	11	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族と相談し、本人の心身状態に応じた医療機関の選択と受診支援に努めている。	協力医療機関の定期受診、状態説明は電話で行っている。病状に応じてその都度往診も対応している。	



厚真町高齢者グループホーム やわらぎ

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	当事業所は看護職員は配置していないが、町内の協力医療機関の看護師と連絡・相談ができるようにしている。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院先の医療機関と情報交換に努めている。		
33	12	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	状態の重度化や終末期ケア必要な場合、家族やかかりつけ医と相談して方針を決定し、必要に応じて医療機関の紹介等をしてもらう。	利用者が重度化などの状態になった際は、家族を交えて意向を確認し、かかりつけ医と相談しながら、医療機関へ移行している。	
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時や体調急変時の対応マニュアルを作成している。 消防機関の実施する救命講習にも参加している。		
35	13	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害時行動マニュアルを作成しており、定期に読み合わせ等で確認している。また、消防や近隣住民と協力して火災避難訓練を実施している。	昼夜想定で消防署立会いの下避難訓練を実施し、運営推進会議のメンバー、町の防災無線での公報や町内へのスピーカーによる地域住民の参加が得られている。緊急連絡網が整備されており、災害時マニュアルを作成して確認をしている。	
<b>その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	情報保護に関する方針を定め、個人情報の取扱いは十分配慮している。	プライバシー、個人情報に十分注意しながら対応している。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	理解力に応じたコミュニケーションを図り、自己決定を大切にしながら支援を行っている。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個人のペースと集団での決まりごとに配慮しながら希望に沿った支援を実施している。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	外出時など、化粧や洋服でのオシャレ支援を実施している。整髪等の理美容については、希望する店舗でサービスが受けられるように支援している。		

厚真町高齢者グループホーム やわらぎ

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事準備(米とぎ、皮むき、調理、味付け)、配膳、後片付け(皿洗い、皿拭き)等、一人ひとりができることを活かしている。	個々人のできることを活かしながら、食材の買い出し、準備、片付けなどを行い、利用者と職員と一緒に食事を楽しんでいる。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	生活記録によって食事・水分摂取量を把握し、必要と思われる分量が摂取できるよう努めている。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、義歯洗浄などの口腔ケアを実施しており、口腔内の状態も確認している。		
43	16	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	生活記録によって排尿・便の間隔や時間を推定し、排泄の自立にむけて支援している。	排泄、水分量を把握しながら、紙パンツから布パンツへと自立への支援を行っている。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取量が少なくならないように努めるとともに、個別に食物繊維食品等を摂取していただいている。		
45	17	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	曜日や時間帯を特に決めてはいるわけではないが、日中の職員が多い時間帯(主に午後)に支援している。その中で、一人ひとりの希望やタイミングを合わせながら支援している。	週3回を目処に日中対応で行われている。調査日当日もお湯が張られ、脱衣室も温められており、希望に沿ったタイミングに合わせた支援が行われている。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	照明の明るさや、室温等の環境に配慮している。様々な工夫で安眠が確保できない場合、医療機関と相談している。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員全員が処方約について確認しており、重要性を認識した上で服薬支援している。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	1人ひとりの生活歴や得意なことを活かしながら、家事・買物・畑仕事などに取り組んでいる。		

厚真町高齢者グループホーム やわらぎ

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	<p>日常的な外出支援</p> <p>一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している</p>	<p>買物や散歩、ドライブ、畑作業等を通じて、戸外に出る機会が不足しないように努めている。</p>	<p>買い物、散歩、ドライブ、畑作業、温室での花作りなど、個々人の希望に合わせた支援が行われている。</p>	
50		<p>お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>家族と相談の上、お金を持つことのできる入居者については、所持したり使えるように支援している。</p>		
51		<p>電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている</p>	<p>年賀状のやりとりや電話での連絡支援を実施している。</p>		
52	19	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>共用空間は、季節に応じた装飾をおこなうなど季節感を感じる工夫をしている。 共用ソファ、食卓、小上がり等、思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。</p>	<p>天窓からの明るい日差しや木の温もりを感じる広い居間である。食堂には機能的なテーブルが置かれ、大きく広い窓から季節の移ろいを感じるくつろぎコーナーや個になるスペースもあり、ゆったりとした共用空間である。利用者の友人夫妻も絶賛していたが、建物、間取りが秀逸である。</p>	
53		<p>共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>複数人が座れるソファを設置し、気の合う者同士が集まって談笑している。</p>		
54	20	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>本人の馴染み深い物品を居室に置くことで、少しでも居心地が良いと感じられるように配慮している。</p>	<p>備え付けの家具はあるが、なるべく、馴染みの品、使い慣れた物、手芸作品を飾りながら、落ち着いた居室作りの工夫がなされている。</p>	
55		<p>一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>居室に表札を出したり、トイレに「便所」という貼り紙をするなどの工夫により、自立した生活の支援をしている。</p>		



## 目標達成計画

事業所名:厚真町高齢者グループホーム「やわらぎ」

作成日:平成23年4月25日

市町村受理日:平成23年5月12日

## 【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	1	理念の共有と実践 地域密着型サービス事業ではあるが、現状の事業所理念は地域とのかかわりを意識したものになっていない。 地域密着型サービス事業所として、地域との関係性を示す考えを理念の中に取り入れる必要がある。	「地域」をキーワードに、グループホーム「やわらぎ」の理念を再構築する	職員に、「地域」とのかかわりを意識した理念について、自身の理想とする理念を文言にして提案してもらう。 提案の中から、最適なものを選考または組み合わせることで、理念の再構築を図る。	5月1日 ～7月30日 3ヶ月間
2	6	身体拘束をしないケアの実践 どのような事が身体拘束にあたるのか、について職員全体の認識が曖昧である。 身体拘束をしないケアについて、共有認識する必要がある。	身体拘束の内容と弊害について、職員全体で適切に認識する。	職員会議などの場において、身体拘束にあたるケア等に関する研修に取り組む。 玄関の施錠時間が長いと、身体拘束にあたるの可能性なども意識して、施錠開錠時間を再検討する。	5月1日 ～7月30日 3ヶ月間
3	26	チームでつくる介護計画とモニタリング 介護計画の立案、評価、継続・修正等の記録について、一連の流れがわかりやすいように記録する必要がある。 現状の方法では介護計画の策定、モニタリングの課程がわかりづらい。	介護計画の策定、モニタリングの課程にチームで取り組み、適切且つ分かりやすい記録を実践する。	各入居者の介護計画とモニタリング作業を各スタッフで分担する。このことで、適切な記録を整備できる体制を整える。また、介護計画だけ出なく、その他主要業務についても担当制を取り入れることで、ケアの質の向上を目指す。	5月1日 ～7月30日 3ヶ月間
4					
5					

注1)項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入して下さい。

注2)項目数が足りない場合は、行を追加して下さい。